

今後の中心市街地活性化の重点課題
～新たな「まちなか再生」に向けて～
(骨子案)

中心市街地活性化評価・推進委員会

◆ これからの中心市街地活性化の意義

- 「都市の利便性」と「地方の豊かさ」両面のポテンシャルを持つ“まちなか”を魅力あふれるものとするのが地方都市再生の第一歩。
- 歴史・文化等を有し、重点的な投資がなされ、一定の官民ストックが集積し、効率的な再投資を可能とする“まちなか”の再生を最優先に考えることが重要。
- 地域住民等が世代を超えて愛着を持ち、人々の「居場所」として包摂性や多様性を有する“まちなか”をつくり上げる先に地方都市の課題解決が実現。 等

◆ 中心市街地活性化の主な基本的方向性

- 「消費中心の場」から「生活を充実させる場」へ
- 様々なチャレンジを後押しする「地域のアイデンティティの中心」へ
- 地域の強み・特性を生かす「ローカルファースト」へ
- 公共投資からその先の「民間投資」へ
- 中心部と郊外部の「Win-Win」へ 等

◆ 新たな時代のまちなか再生に必要な重点的な分野

- まちなかの商店街や商業機能のリノベーション等の民間の取組の後押し
- 起業・創業によるチャレンジの“場”とイノベーションの創出環境の形成
- 若者・女性・高齢者など多様な人を包摂する生活・暮らしの“場”としての充実 等

◆ 地域の創意と取組を支える仕組み

- 地域の創意を後押しする支援・インセンティブ措置の拡充・強化
- 外部人材の活用など、まちなか再生の担い手の確保・活用方を強化
- 計画認定制度を大幅に見直し、ローカルファーストに適した仕組みへ
- 国・市町村の連携体制を新設し、自治体の取組意欲を喚起・醸成 等